

好学尚武

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 7 . 5 . 3 0

発行ナンバー 1 1 8 4 号

「気」の充実を

時代に逆行しているのかも知れません。

でも・・・選手達に「気（持ち）の充実」を求めたいです。

私達が在籍している高校野球（アマチュア野球）は、「気」の充実で何とかなる部分があると私は思っています（古い考えとか言われそう・・・）。

打席内で・・・

- 絶対簡単にアウトにならないぞ！
- 気を充実させながらもボール球はしっかり見逃す。
- 際どいボールはファールにして喰らいつく。

「気」の充実は、相手バッテリーに伝わるものです。それがコントロールミス等を起こさせる・・・

守備も同様です。

強い相手ほど、強い打球を打ってきます。そのすべてを捕球する必要はありません。身体を張って止めてアウトにしてやるという「気」が欲しいのです。そういう姿勢は相手打者に影響を与え、本来のバッティングをさせなくしたりすることがあります（必要以上に力んでくれる・・・など）。

一番「気」を充実させて欲しいのはやはりバッテリーです。投手は1人だけマウンドという高い位置にいますし、捕手も1人だけ（他全ポジションから見られる）向きの違う所に守っているからです。

「上手い」より「強い」選手、そんな選手達と勝利を目指したいと思います。

野球＝「失敗」のスポーツ

野球型のスポーツとは、誰かしの「ミス＝失敗」で試合が進行していくという特性があります。そしてそれが「人生と似ている」と言われるようなことも少なからずあります。

野球における「良い選手」とは、その失敗を短いスパンでも長いスパンでも生かすことができる選手を指すのだと思います。

短いスパンとは、その試合内でのということです。前の打席での失敗を次の打席以降に活かす・・・など（投球や走塁も同様です）。

長いスパンとは、大会全体を通じて感じた失敗や反省を次の大会などに活かすことを指しています。

大事なことが何だかわかるでしょうか？

ズバリ「感じること」です。感じない選手は成長しません。また難しいのは、感じ過ぎて「引きずる」選手は結果を出せないということです。「失敗のスポーツなのだ」と「割り切る」ことも必要なのです。

イチロー選手はこのように述べています。

失敗とどう向き合うかが大切、失敗の原因を第三者に向けるのではなく、自分に何が足りなかったのかを問うべき。（私は）日米通算3000本安打を達成したが、6000回以上失敗している。失敗から多くのことを学んで欲しい。

2つのチームに分かれ、年間で1番試合をする期間に突入しました。どんどん「良い選手」になって行って欲しいと思います。